

当面のスローガン

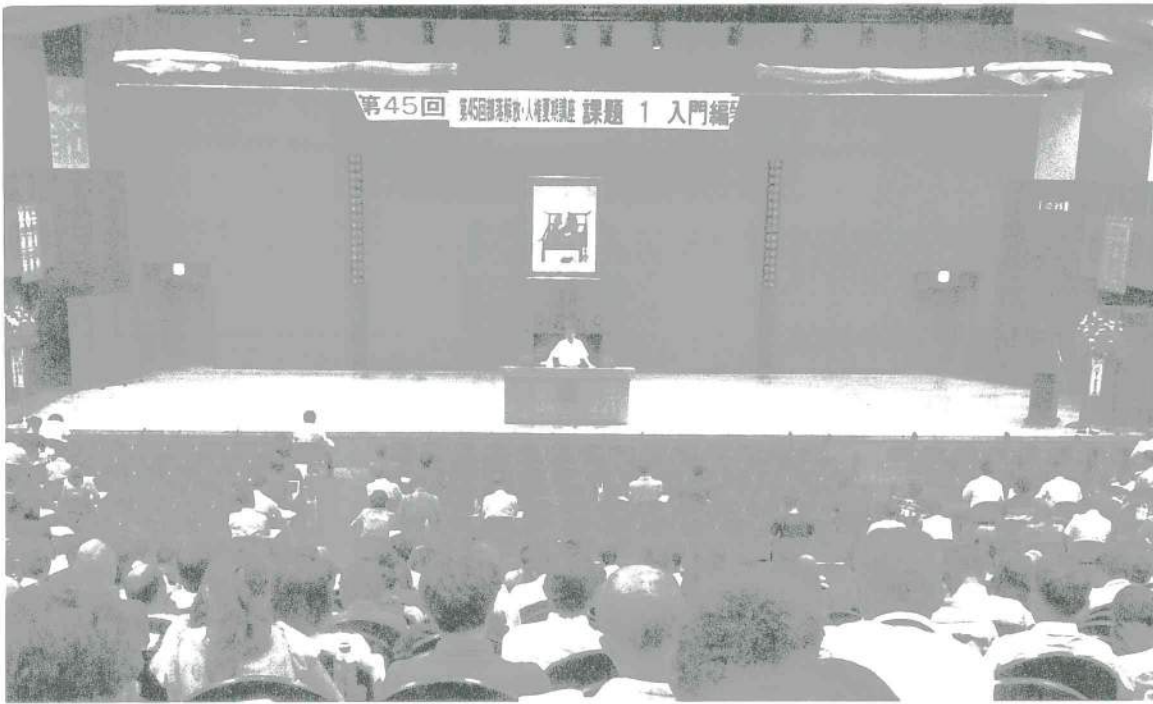
- 本年こそ「人権侵害救済法」を制定させよう!
- 狭山再審闘争の勝利をかちとろう!
- 続発する差別事件の糾弾を徹底しよう!



発行所
解放新聞和歌山支局

〒640-8314
和歌山市神前 405-3
TEL 073-473-2301
FAX 073-473-2302

発行責任者
中澤敏浩



1,300人の参加者が高野山で学んだ

人権を学ぶ

高野山夏期講座

第45回高野山人権講座が8月20日〜22日、高野山大学松下講堂黎明館でひらかれ、宗教関係者、行政、企業、実行委員会、共闘、教育関係者、解放同盟など1300人が参加した。

はじめに、奥田均・実行委員会代表(部落解放・人権研究所理事長)から「サツカー場での横断幕やヘイトスピーチなど、在日コリアンへの差別的な攻撃が増発している。人権の諸課題を啓発・教育の場で学ぶこと

が重要」と訴えた。

3本の全体講演のひとつに「重なり合う差別『複合差別』を考える」というテーマでのシンポジウムでは、谷口真由美・大阪国際大学のコーディネーターで、障害者権利条約批准後の課題、在日外国人の置かれている歴史、被差別部落のひとり親家族の実態、無戸籍児童の問題など、それぞれ研究者や当事者からの問題提起がなされた。

そうして、まだまだ知らない被差別の現実があり、知らないことが一層課題を困難にさせている事実を、さまざまな被差別の実態をつうじて報告された。とくに、差別という事実は、単純に独立してとらえられるものではなく、その人がおかれている社会的状況のなかで、複雑に絡みあいながら現象として現れる。部落の女性や高齢者、子どもは、部落差別という状況とそれぞれの立場での差別をもう

ける現実がある。

部落への忌避意識が土地差別に

2日目の課題1(入門編)の4講義目では、県連・藤本哲史書記長から「Y住宅販売会社の概要ととりくみ」について報告された。一昨年12月に和歌山で発覚した社内文書への差別記載が、その後のとりくみのなかで和歌山を含め13府県でも同様の差別記載が判明し、全国的な糾弾闘争へと広がってきた。

事件の原因は、記載した担当者の差別意識だけではなく、会社の部落問題にまったくとりくんでこなかった状況から、Y社は、会社創設以来30数年、人権問題にまったくとりくんでこなかった事実が、差別を放置し温存させてきた。その結果が13府県での差別事件につながったこと。そして、市民のなかに根深く存在する部落への忌避意識、土地差別が常態化している業

時空を歩く

最後に、事件の感想や自分たちの生活のなかに潜む「忌避意識」などを中心に参加者との意見や議論が交わされた。

夏期講座は、さまざまなテーマで講座がおこなわれるが、3日目にはフィールドワーク「高野山の宗教空間を歩く」と題しておこなわれた。

フィールドワークは、奥の院入り口近くの刑場の跡やハンセン病患者の供養堂などをはじめ、女人禁制にかかわる場所等をめぐる研修だが、高野山信仰の表層の部分だけでなく、高野聖やさまざまな信者・人びとの思いにふれる深層にも迫る極めて意義深いものである。とくに印象深いのは、奥の院を中心に散乱する一石に刻まれた名もなき人びとの五輪塔である。

高野山では、来年「高野山開創1200年」の記念行事が予定されており、そうした主旨もふまえた開催を計画している。

頑健

もし、スコットランドの独立が多数を占めた場合、世界的にとくに経済に与える影響が大きいと多くの学者やエコノミストがいう。難しい

ことはわからないが、背景に不況と格差の増大、膨大な軍事費と福祉の低下が上げられている。歴史的には、メルギブソンの主演映画「ブレイブハート」をみるとわかると思う。さて、分離独立問題は、イギリスに限らず、多くの国々で起きていたが、それらを単純に民族主義の台頭と片づけられない。その根底には、経済の破綻と深刻な生活格差の問題がある▼また、極端な民族主義の台頭は、同時に差別と暴力が強まるということでもある。ドイツでは反ユダヤ主義が公然と活動し、慌ててメルケル首相が「あらゆる反ユダヤ主義と闘う」と宣言している。さらに、日本でも在日の人びとへのヘイトスピーチが露骨化してきている▼国際情勢にかかわる中東やウクライナ情勢。さらに、東アジアでも日中韓の関係や南沙諸島をめぐる不安定な状況にある。まさに混沌である▼少し話は変わるが、NHKの朝ドラマ「花子とアン」の脚本を書いた中園ミホさんは、テレビの美輪明宏さんとの対談のなかで「今、花子や白蓮が生きた時代ととても似ている」と語っていた。真実を知らされないまま戦争に突入し、多くの人びとの生命や生活を奪い、若者の未来を奪ってきた時代と似ている。つまり、軍靴の音が静かに確実に近づいてきているというのである。(S・I)